

普及活動情勢報告（令和7年10月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

地域の特産品を知ろう！～露地ショウガ出前授業～



熱心に耳を傾ける児童

9月23日、JA香美地区ショウガ部会が香美市立山田小学校でショウガの出前授業を行い、六年生児童約80名が参加しました。

今回の授業では地域特産物であるショウガの栽培方法や生産者の思いを学んでもらいました。農業改良普及課は、連絡調整や発表資料作成などのサポートを行いました。

児童からは「ショウガを栽培しようと思った理由は？」「困っていることは何か」などの質問があり、生産者は「ショウガ作りに一生懸命取り組む姿を消費者に伝えたい」と思いを語りました。

農業改良普及課は、今後もショウガの生産振興に向けて支援します。

ナスの収量増へ向け、現地検討会を開催



互いに教え学び合う生産者

9月24日、JA香美地区でナス部会の現地検討会が開催され、生産者19名が10カ所のほ場を巡回しました。

農業改良普及課は、ナスの主枝摘心までの生育バランスの判断基準とコントロール方法について説明し、ハウス内環境の正確な把握の重要性を強調しました。また、コナジラミ類や黒枯病などの病害虫対策についても情報提供しました。

生産者からは「簡易な環境測定装置を導入し、データに基づいた栽培に取り組みたい」と前向きな声が聞かれました。

農業改良普及課は、この現地検討会で得られた知見と現場の声を活かし、ナスの安定した高品質・高収量の実現に向け、今後も支援を継続していきます。

ほ場のニラはどうなっちゅう？～ニラ部会野市支部現地検討会～



現地ほ場で生育を確認し意見交換する参加者

9月26日、JA香美地区ニラ部会野市支部が現地検討会を開催し、生産者18名が参加しました。

農業改良普及課は、管内のアザミウマ類の発生状況や農作業安全、農薬適正使用について説明しました。情報提供後は、新規就農者のほ場に移動し生育状況を確認しました。

参加者からは「トラクターのシートベルト着用義務化は令和9年1月1日からなのか」「赤色LEDによるアザミウマ類の防除効果はどうか」といった声が聞かれ、現地ほ場でも活発な意見交換が行われました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、ニラの安定生産を支援します。

産地を越えた交流を！～香美・南国ピーマン合同現地検討会の開催に向けて～



内容を検討する様子

10月1日、JA香美地区及び土長地区のピーマン部会長3名と営農指導員、普及指導員で集まり、3部会合同での現地検討会の実施について検討しました。

農業改良普及課は、部会の活性化を図り他地区との交流を深めるために、JAと協議し合同での現地検討会を提案しました。話し合いの結果、今年の第1回は高温対策をテーマに、南国市で開催することになりました。

部会長からは「部会同士でのつながりを持つ機会になる。今後も機会を作りたい」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、部会活動の活性化を目指して支援します。

視察研修で学習と親睦を図ろう！～農村女性リーダー視察研修～



資料を用いての牧場を紹介する女性リーダー

10月7日、中央東地区農村女性リーダー協議会（そよかぜの会）で視察研修を開催し、女性リーダー14名が参加しました。

近年、そよかぜの会では、新規認定となった女性リーダーが増えつつあることから、メンバーの取り組んでいる品目等について学習したいという声が上がり、今年度は酪農を経営するメンバーの牧場で視察研修を行いました。

メンバーの多くは園芸農家で「牧場の雄牛と雌牛の比率は？」「搾乳の時に牛をどのように牛舎へ呼ぶのか」等たくさんの質問が出ました。

農業改良普及課は、当日のスケジュール調整と次回の勉強会の内容について提案を行いました。引き続き、農村女性リーダーの活動が円滑に進むようサポートします。

ハチ活用でフルーツトマト栽培をレベルアップ～フルーツトマト部会現地検討会～



部会員に説明する普及指導員

10月14日、JA香美地区園芸部フルーツトマト部会が現地検討会を開催し、7名が参加しました。

農業改良普及課からは、フルーツトマト栽培初期のマルハナバチの利用について説明しました。

参加者からは「導入初期よりも太ったハチが見えるようになったら巣の終わりの目安になる」などの声が聞かれました。今回、改めて勉強する機会を設けたことで、ハチの管理について部会全体で考える良い機会となりました。

農業改良普及課は、今後もJAと連携して、フルーツトマトの生産安定に向けて支援します。